

親鸞聖人750回大遠忌

『図録 親鸞聖人余芳』の刊行 —親鸞聖人のご事績をしのぶ—

赤松徹真

『図録 親鸞聖人余芳』は、親鸞聖人750回大遠忌法要の記念事業の一つとして、このたび本年十月末日に刊行することとなりました。各ご寺院には十一月中旬にお届けいたします。ついては、刊行に先立ちその内容を紹介いたします。

本書は、

- 第一章 親鸞聖人の御影像
- 第二章 親鸞聖人の御真蹟
- 第三章 親鸞聖人伝
- 第四章 親鸞聖人の御家族
- 第五章 親鸞聖人の師と門弟
- 第六章 親鸞聖人の足跡と御由緒地
- 第七章 報恩講・降誕会
- 第八章 親鸞聖人の伝承地と伝承遺品

の全八章から構成されています。顕如上人400回忌法要、蓮如上人500回忌法要の際に『余芳』を刊行しましたが、この度の親鸞聖人の『余芳』刊行は初めてであり、意義深いものです。

ところで、1961（昭和36）年の親鸞聖人700回大遠忌以来、50年が経過して親鸞聖人研究を含め、真宗史、仏教史、地域史、そして日本中世・近世・近代史などの諸分野の研究は着実に進展してきました。戦後、常識化して定着していた、鎌倉旧仏教＝国家仏教・貴族仏教、鎌倉新仏教＝民衆仏教・庶民仏教などという理解の枠組みに関しても、この間、根本的な見直しが行われてきました。また、各地域の史料収集・調査などが進み、その成果として道府縣市町村史などが刊行され、それらの中に教団の地方的展開を含めた多くの研究の成果がもたらされてきました。なにより親鸞聖人のご生涯、ご足跡などの研究も進展し、本願寺教団の成立から展開に関する研究も著しく進展してきましたのです。これらの研究成果を継承しながら、今年4月には、『増補改訂 本願寺史』第一巻が刊行されました。

さて、『図録 親鸞聖人余芳』に収録した法宝物などは、本願寺に所蔵するものをはじめ、真宗大谷派・真宗高田派・真宗佛光寺派の各御本山、二尊院、宝福寺、大谷派・本願寺派所属の寺院、龍谷大学などの所蔵のものを掲載させ

ていただきました。写真には所蔵者を明記してありますが、記載のないものはすべて本願寺に大切に保存されてきた法宝物です。

一部を紹介すると、親鸞聖人の御影像については、「鏡御影」「安城御影・正本」「安城御影・副本」「安城御影」（東本願寺所蔵）「熊皮御影」「花御影」「真向御影」など、すでによく知られていますが、貴重な七幅と木像を掲載しており、親鸞聖人のお姿に逢わせていただくことができます。

ご真蹟の名号として「十字名号」「八字名号」「六字名号」「黄地十字名号」「紺地十字名号」などを掲載し、お名号を本尊とするお念仏の教えを賛銘からも学ぶことができます。

ご真蹟の『教行信証』（板東本）『観無量寿経註』『阿弥陀経註』『親鸞聖人書状』なども掲載しています。そして、親鸞聖人のご生涯を描いた『善信上人絵』『本願寺聖人伝絵』（東本願寺所蔵）『親鸞聖人絵伝』（本願寺所蔵、光照寺所蔵・赤野井別院所蔵・徳力善雪画）などは、それぞれに特色を有しており、親鸞聖人のご生涯がどのようなものであったのかを学べます。

親鸞聖人とともにお念仏の道を歩まれた恵信尼さまのお人柄やご苦勞をしのばせていただく上で欠かせない「恵信尼自筆書状類」も掲載し、釈文を添えていますので、じっくりと読み通すことができます。この「恵信尼自筆書状類」は、1921（大正10）年に本願寺宝物庫から発見され、親鸞聖人研究に画期的進展をもたらしました。お念仏の教えの継承と本願寺の成立、そしてお弟子たちを図像化した「善導大師・源空聖人・親鸞聖人三祖像」「親鸞聖人・如信宗主・寛如宗主連坐像」「親鸞聖人・蓮如宗主連坐像」や弟子の真仏・顕智・善然・性信などの坐像も掲載しています。そしてご足跡と由緒地、伝承地及び伝承遺品など浄土真宗の広がりや定着、さらに報恩講法要・降誕会などを含めて、さまざまな側面からご事績をしのべる内容となっています。

附編には、本願寺歴代系図、親鸞聖人系図、親鸞聖人年譜、親鸞聖人自署花押集、親鸞聖人関係地図を収載しています。

すでに21世紀に入り10年、戦後65年を迎え、世界的のみならず、国内的にもさまざまな利害が幾重にも交差し、対立して、人びとの苦悩は広がり、深まって、現代社会は混沌としています。あらためて親鸞聖人のご生涯と浄土真宗の教法を学び、現代社会のさまざまな課題に取り組みながら、私たちがひたすら「自信教人信」の道を歩むことこそ、宗祖の恩徳に謝することになります。

この度の『図録 親鸞聖人余芳』を通して、私たちはあらたな思いで親鸞聖人のご事績をしのび、お徳を讃えさせていただきたいと思えます。

（本願寺史料研究所 所長）